

就職・進学状況について

令和6年5月1日現在

	学生数 (4年生)	卒業者数	就職希望者数																進学希望者数	就職・進学をしない者
			計	就職率	一般企業	官公庁、独法 (除:病院)、 公立保育所・幼稚園	教員	福祉 (施設・機関・団体)	幼保施設 (私立)	病院 (含:独法、公立)・診療所	養護教諭	その他の就職 (NPO・起業含む) ※希望進路不明者含む								
公共社会学科	53	47	44 (44)	100.0%	28 (28)	11 (11)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2				
男	23	19	17 (17)	100.0%	9 (9)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1				
女	30	28	27 (27)	100.0%	19 (19)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1				
社会福祉学科	52	48	45 (45)	100.0%	7 (7)	11 (11)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3				
男	10	9	8 (8)	100.0%	0 (0)	2 (2)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1				
女	42	39	37 (37)	100.0%	7 (7)	9 (9)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2				
人間形成学科	54	49	36 (34)	94.4%	19 (17)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	1				
男	13	9	5 (4)	80.0%	5 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	1				
女	41	40	31 (30)	96.8%	14 (13)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0				
人間社会学部	159	144	125 (123)	98.4%	54 (52)	32 (32)	5 (5)	25 (25)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	6				
男	46	37	30 (29)	96.7%	14 (13)	7 (7)	3 (3)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	3				
女	113	107	95 (94)	98.9%	40 (39)	25 (25)	2 (2)	20 (20)	1 (1)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	3				
看護学部 看護学科	100	93	83 (83)	100.0%	1 (1)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	60 (60)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0				
男	4	4	4 (4)	100.0%	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0				
女	96	89	79 (79)	100.0%	1 (1)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	57 (57)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0				
大学全体	259	237	208 (206)	99.0%	55 (53)	42 (42)	5 (5)	25 (25)	1 (1)	68 (68)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	6				
男	50	41	34 (33)	97.1%	14 (13)	8 (8)	3 (3)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	3				
女	209	196	174 (173)	99.4%	41 (40)	34 (34)	2 (2)	20 (20)	1 (1)	64 (64)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	3				

※括弧内は内数で内定者・決定者数。

※希望する進路が不明の者は、「その他の就職(NPO・起業含む)」に含め、就職希望者として計算。

※学生数は令和5年5月1日時点。

令和5年度卒業生 就職・進学状況(人間社会学部)

令和6年5月1日現在

1. 学生の進路希望状況

	4年生数			卒業生数			就職希望者数(A)			進学希望者数			進路未定者 (就職・進学をしない者含む)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
公共社会学科	23	30	53	19	28	47	17	27	44	1	0	1	1	1	2
社会福祉学科	10	42	52	9	39	48	8	37	45	0	0	0	1	2	3
人間形成学科	13	41	54	9	40	49	5	31	36	3	9	12	2	1	3
全 体	46	113	159	37	107	144	30	95	125	4	9	13	4	4	8

2. 就職状況

	民間企業等			官公庁等			病院・福祉・保育園関係			就職決定者数(B)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
公共社会学科	9	19	28	8	8	16	0	0	0	17	27	44
社会福祉学科	0	7	7	2	9	11	6	21	27	8	37	45
人間形成学科	4	13	17	0	10	10	0	7	7	4	30	34
全 体	13	39	52	10	27	37	6	28	34	29	94	123

3. 進学状況

	進学者数		
	男	女	計
公共社会学科	1	0	1
社会福祉学科	0	0	0
人間形成学科	3	9	12
全 体	4	9	13

4. 就職内定率

	就職率(%) (B/A)		
	男	女	総合
公共社会学科	100.0%	100.0%	100.0%
社会福祉学科	100.0%	100.0%	100.0%
人間形成学科	80.0%	96.8%	94.4%
学部全体	96.7%	98.9%	98.4%

5. 求人数

29967件

令和5年度卒業生 就職・進学状況(看護学部)

令和6年5月1日現在

1. 学生の進路希望状況

	4年生数			卒業生数			就職希望者数(A)			進学希望者数			進路未定者 (就職・進学をしない者含む)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
看護学部	4	96	100	4	89	93	4	79	83	0	10	10	0	0	0
全 体	4	96	100	4	89	93	4	79	83	0	10	10	0	0	0

2. 就職状況

	就職決定者数(B)		
	男	女	計
看護学部	4	79	83
全 体	4	79	83

3. 進学状況

	進学者数		
	男	女	計
看護学部	0	10	10
全 体	0	10	10

4. 就職内定率

	就職率(%) (B/A)		
	男	女	総合
看護学部	100.0%	100.0%	100.0%
学部全体	100.0%	100.0%	100.0%

5. 求人数

1435件

人間社会学部卒業生の年次別進路状況

令和6年5月1日現在

学科	就職先区分	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
公共社会学科	官公庁等 (うち教員)	3 (1)	9 (3)	15 (4)	11 (1)	16 (5)	
	民間 (うち教員)	48 (0)	41 (0)	33 (0)	39 (0)	28 (0)	
	進学	0	2	0	2	1	
	その他 (うち未内定者) (うち就職・進学しない)	1 (0) (1)	1 (0) (1)	5 (3) (2)	3 (2) (1)	2 (0) (2)	
	計	52	53	53	55	47	
就職率		100.0%	100.0%	94.1%	96.2%	100.0%	
社会福祉学科	官公庁等 (うち教員)	9 (0)	4 (0)	8 (0)	11 (1)	11 (0)	
	民間 (うち教員)	49 (0)	47 (0)	38 (0)	36 (0)	34 (0)	
	進学	1	0	1	2	0	
	その他 (うち未内定者) (うち就職・進学しない) (うち病氣療養)	2 (0) (2)	6 (0) (6)	3 (0) (3)	3 (0) (3)	3 (0) (3)	
	計	61	57	50	52	48	
就職率		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
人間形成学科	官公庁等 (うち保育士・幼稚園教諭)	14 (12)	10 (7)	11 (7)	11 (7)	10 (5)	
	民間 (うち保育士・幼稚園教諭)	36 (16)	25 (10)	33 (8)	23 (11)	24 (4)	
	進学	7	10	10	10	12	
	その他 (うち未内定者) (うち就職・進学しない者) (うち病氣療養) (うち進学希望者)	0 (0) (0) (0)	9 (3) (6)	7 (0) (2) (3)	8 (0) (3) (1) (4)	3 (2) (0) (0) (1)	
	計	57	54	61	52	49	
	就職率		100.0%	92.1%	100.0%	100.0%	94.4%
	合計	官公庁等	26	23	34	33	37
民間		133	113	104	98	86	
進学		8	12	11	14	13	
その他 (うち未内定者) (うち就職・進学しない) (うち病氣療養) (うち進学希望者)		3 (0) (3) (0) (0)	16 (3) (13) (0) (0)	15 (3) (7) (3) (2)	14 (2) (7) (1) (4)	8 (2) (5) (0) (1)	
計		170	164	164	159	144	
就職(内定)者数		159	136	138	131	123	
就職希望者		159	139	141	133	125	
就職率		100.0%	97.8%	97.9%	98.5%	98.4%	

看護学部卒業生の年次別進路状況

令和6年5月1日現在

学科	就職先区分	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
看護学科	保健師・看護師・助産師	80	81	73	65	69
	教員(養護教諭等)	8	8	11	8	12
	民間企業	0	1	0	1	1
	その他の職種	0	0	0	0	1
	進学	7	9	7	10	10
	その他 (うち未内定者)	0	0	2	5	0
	(うち就職・進学しない)			(1)	(5)	
	(うち病気療養)			(1)		
	計	95	99	93	89	93
就職(内定)者数		88	90	84	74	83
就職希望者		88	90	84	74	83
就職率		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

令和5年度卒業生 看護学部 就職・進学実績

令和6年5月1日現在

看護学科 [93]

●病院・医療施設 [60]

産業医科大学病院・産業医科大学若松病院[4]
 国家公務員共済組合連合会 浜の町病院[4]
 九州大学病院[3]
 独立行政法人国立病院機構 九州医療センター[3]
 独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院[3]
 社会福祉法人恩賜財団済生会 福岡県済生会福岡総合病院[3]
 社会医療法人財団池友会 福岡和白病院[2]
 国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院[2]
 地方独立行政法人下関市立市民病院[2]
 社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県 済生会横浜市東部病院[2]
 独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター
 独立行政法人労働者健康安全機構 九州労災病院
 地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市立こども病院
 地方独立行政法人北九州市立病院機構
 医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院
 医療法人みなみ 粕屋南病院
 医療法人和光会 一本松すずかけ病院
 医療法人コミュニテ風と虹 のぞえ総合心療病院
 社会医療法人財団白十字会 白十字病院
 社会医療法人福西会 福西会病院
 社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福岡県済生会二日市病院
 一般社団法人福岡県社会保険医療協会 社会保険直方病院
 日本赤十字社 福岡赤十字病院
 佐賀大学医学部附属病院
 広島大学病院
 鳥取大学医学部附属病院
 島根大学医学部附属病院
 神戸大学医学部附属病院
 東京医科大学八王子医療センター
 東京女子医科大学附属八千代医療センター
 東邦大学医療センター大森病院
 鳥取県立中央病院
 兵庫県立尼崎総合医療センター
 霧島市立医師会医療センター
 地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター
 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
 社会福祉法人恩賜財団済生会支部岡山県済生会 岡山済生会総合病院
 日本赤十字社 長崎原爆病院
 日本赤十字社 日本赤十字社医療センター

日本赤十字社 東京都支部 大森赤十字病院
 宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション 淀川キリスト教病院
 NTT東日本関東病院

●民間企業[1]

シミックヘルスケア・インスティテュート株式会社

●官公庁(保健師) [10]

北九州市[2]
 福智町[2]
 福岡県
 香春町
 長崎県
 長崎市
 諫早市
 神戸市

●教員(養護教諭等) [12]

福岡県立早良高等学校
 福岡県立田川科学技術高等学校
 九州産業大学付属九州高等学校
 福岡県教育センター
 赤村立赤中学校
 福岡市立壱岐小学校
 大牟田市立駿馬小学校
 朝倉市立蜷城小学校
 粕屋町立仲原小学校
 天草市立新和中学校
 都城市立東小学校
 錦江町立神川小学校

●大学院・専門学校等 [10]

福岡県立大学大学院[5]
 久留米大学大学院[2]
 筑波大学大学院
 西南女学院大学
 名桜大学

国家試験合格者の推移

【社会福祉士】

福岡県立大学(現役合格者)				全国			
学生期		受験者	合格者	合格率	受験者数	合格者数	合格率
22期生	H28年度	51	32	62.7%	45,849	11,828	25.8%
23期生	H29年度	57	38	66.7%	43,937	13,288	30.2%
24期生	H30年度	50	39	78.0%	41,639	12,456	29.9%
25期生	R1年度	57	45	78.9%	39,629	11,612	29.3%
26期生	R2年度	52	35	67.3%	35,287	10,333	29.3%
27期生	R3年度	45	33	73.3%	34,563	10,742	31.1%
28期生	R4年度	46	43	93.5%	36,974	16,338	44.2%
29期生	R5年度	45	40	88.9%	34,539	20,050	58.1%

【精神保健福祉士】

福岡県立大学(現役合格者)				全国			
学生期		受験者	合格者	合格率	受験者数	合格者数	合格率
22期生	H28年度	13	13	100.0%	7,174	4,446	62.0%
23期生	H29年度	17	15	88.2%	6,992	4,399	62.9%
24期生	H30年度	12	11	91.7%	6,779	4,251	62.7%
25期生	R1年度	15	14	93.3%	6,633	4,119	62.1%
26期生	R2年度	10	10	100.0%	6,165	3,955	64.2%
27期生	R3年度	11	10	90.9%	6,502	4,267	65.6%
28期生	R4年度	14	14	100.0%	7,024	4,996	71.1%
29期生	R5年度	6	6	100.0%	6,978	4,911	70.4%

【看護師】

福岡県立大学(現役合格者)				全国			
学生期		受験者	合格者	合格率	受験者数	合格者数	合格率
11期生	H28年度	84	80	95.2%	56,381	53,177	94.3%
12期生	H29年度	90	90	100.0%	57,929	55,764	96.3%
13期生	H30年度	86	84	97.7%	58,308	55,216	94.7%
14期生	R1年度	95	95	100.0%	59,320	56,175	94.7%
15期生	R2年度	99	98	99.0%	59,593	56,868	95.4%
16期生	R3年度	93	92	98.9%	59,148	57,057	96.5%
17期生	R4年度	89	83	93.3%	58,911	56,276	95.5%
18期生	R5年度	93	92	98.9%	57,860	53,903	93.2%

【保健師】

福岡県立大学(現役合格者)				全国			
学生期		受験者	合格者	合格率	受験者数	合格者数	合格率
11期生	H28年度	13	13	100.0%	7,590	7,172	94.5%
12期生	H29年度	15	15	100.0%	7,675	6,572	85.6%
13期生	H30年度	13	13	100.0%	7,456	6,567	88.1%
14期生	R1年度	12	12	100.0%	7,318	7,050	96.3%
15期生	R2年度	13	13	100.0%	7,281	7,094	97.4%
16期生	R3年度	10	9	90.0%	7,504	6,975	93.0%
17期生	R4年度	15	15	100.0%	7,477	7,235	96.8%
18期生	R5年度	14	14	100.0%	7,387	7,218	97.7%

【助産師(大学院)】

福岡県立大学(現役合格者)				全国			
学生期		受験者	合格者	合格率	受験者数	合格者数	合格率
1期生	H28年度	4	3	75.0%	2,044	1,904	93.2%
2期生	H29年度	6	6	100.0%	2,087	2,074	99.4%
3期生	H30年度	4	4	100.0%	2,079	2,076	99.9%
4期生	R1年度	6	6	100.0%	2,098	2,088	99.5%
5期生	R2年度	6	6	100.0%	2,097	2,091	99.7%
6期生	R3年度	5	5	100.0%	2,078	2,071	99.7%
7期生	R4年度	6	4	66.7%	2,055	1,971	95.9%
8期生	R5年度	5	5	100.0%	2,063	2,049	99.3%

(参考)

【助産師(学部)】

福岡県立大学(現役合格者)				全国			
学生期		受験者	合格者	合格率	受験者数	合格者数	合格率
1期生	H18年度	8	7	87.5%	1,587	1,508	95.0%
2期生	H19年度	8	8	100.0%	1,631	1,604	98.3%
3期生	H20年度	8	8	100.0%	1,709	1,708	99.9%
4期生	H21年度	8	6	75.0%	1,896	1,577	83.2%
5期生	H22年度	10	9	90.0%	2,097	2,059	98.2%
6期生	H23年度	9	9	100.0%	2,064	1,982	96.0%
7期生	H24年度	7	7	100.0%	2,010	1,987	98.9%
8期生	H25年度	7	7	100.0%	2,042	1,993	97.6%
9期生	H26年度	8	8	100.0%	1,976	1,975	99.9%

※助産師はH27年度を受験者なし(助産課程の大学院移行のため)

退学者数・留年者数の状況について（令和5年度）

■ 退学者数

年度	計	1年次	2年次	3年次	4年次（含留年者）
2019（R1）年度	4	公共1/看護1	福祉1	0	看護1
2020（R2）年度	6	福祉3/形成1	看護1	看護1	0
2021（R3）年度	14	看護1	福祉2/形成2/ 看護1	公共2/福祉1/ 形成1/看護3	公共1
2022（R4）年度	9	0	福祉1/看護3	形成1	公共1/福祉1/形成1/ 看護1
2023（R5）年度	11	0	福祉1/形成2	形成1	公共2/福祉3/形成1/ 看護1

- ・令和5年度は、退学者が昨年度と比較して若干増加している。
- ・4年次の退学者7人のうち、1人は留年者であった。
- ・1年次の退学者は全学科0であった一方、2年次以降一定の退学者が存在する。
- ・授業参加が滞っている学生や休学中の学生につき、本人の状態に配慮しつつ可能な範囲で大学との接点を維持することにより、不本意な退学を避けるための支援を行っていく必要がある。

■ 留年者数

年度	計	公共	福祉	形成	看護
2019（R1）年度	19	2	5	2	10
2020（R2）年度	19	2	4	3	10
2021（R3）年度	14	5	2	4	3
2022（R4）年度	18	4	3	1	10
2023（R5）年度	19	1	3	4	11

※留年者……その年度の4年を超えて在籍している者。

- ・令和5年度の全体の留年者数は、過去4年と比較して概ね同数程度である。
- ・公共社会学科の留年者数は、昨年度から減少した。
- ・社会福祉学科の留年者数は、昨年度と同数である。
- ・人間形成学科の留年者数は、昨年度から増加した（1人はR5年度末で退学）。
- ・看護学科の留年者数は、昨年度とほぼ同数である。留年理由としては、留学が2名、養護教諭コースの追加履習が2名、出産育児のための卒業延期が1名、学業上の理由1名、健康上の理由3名、進路検討・経済的理由などが2名であった。
- ・履修状況に課題のある学生については、教務担当やアドバイザー教員等による指導を早期に行うことで、学習の遅れによる留年者数を減少させる必要がある。

令和6年度卒業生アンケート 集計結果(全体)

■送付対象

令和6年3月卒の卒業生のうち送付先が判明している方

■送付時期

10月下旬

■回答〳切

11月末

卒業学科	発送数	回答数	回答率
公共社会学科	42	12	28.6%
社会福祉学科	44	17	38.6%
人間形成学科	34	12	35.3%
看護学科	81	28	34.6%
総計	201	69	34.3%

問1 卒業学科

項目	回答数
公共社会	12
社会福祉	17
人間形成	12
看護	28
合計	69

問2 業種

項目	回答数
1.農林水産業	0
2.鉱業	0
3.建設業	2
4.製造業	2
5.電気ガス水道業	0
6.印刷・情報通信業	1
7.運輸業	0
8.卸小売業	5
9.金融・保険業	3
10.不動産業	0
11.飲食・宿泊業	0
12.教育・学習支援業	7
13.広告業	0
14.旅行業	0
15.人材派遣業	0
16.医療業	22
17.社会福祉業	9
18.保育所(公立)	2
19.保育所(私立)	0
20.幼稚園(公立)	0
21.幼稚園(私立)	0
22.認定こども園(公立)	0
23.認定こども園(私立)	1
24.官公庁	11
25.その他	4
回答なし	0

69

問3 職種

項目	回答数
1.総合職	8
2.事務職	7
3.営業・販売員	6
4.研究職	0
5.技術職	3
6.労務職	0
7.サービス職	0
8.保育士	3
9.幼稚園教諭	0
10.保育教諭	0
11.養護教諭	5
12.その他教員	1
13.介護職員	1
14.相談員・指導員	7
15.看護師	19
16.保健師	3
17.助産師	0
18.その他	6
回答なし	0

69

問4 勤務地

項目	回答数
1筑豊地域	5
2福岡県内(筑豊地域以外)	34
3九州・沖縄(福岡県以外)	12
4その他	18
回答なし	0

69

問5 転職について

項目	回答数
1.転職を考えている	10
2.転職を考えていない	59
回答なし	0

69

令和6年度 卒業生アンケートの結果について（公共社会学科）

◎ 趣旨

令和6年10月～11月に実施した卒業生アンケートのうち、公共社会学科卒業生の回答傾向について整理するもの

1 回答者について

- ・ 令和6年3月卒の卒業生の発送数42に対して、回答数は12となっており、回答率は28.6%となっている。回答数や回答率から考えると、結果については、やはり限定的なものであるという点に留意して整理する必要があるものと考えられる。
- ・ 回答者の業種は多様であり、職種は「事務職」と「営業・販売員」が多い。勤務地は福岡県内のほか、関西圏や関東圏もあり、やはり多様な結果となっている。12名のうち、3名が「転職を考えている」としており、全学よりも高い割合となっている。卒業後1年に満たない段階としては、就職先での定着志向が低いことがうかがえる。

2 授業・活動について

- ・ 「専門科目」や「ゼミ」については、「有意義だった」あるいは「どちらかといえば有意義だった」が大半を占めている。特に「ゼミ」が「有意義だった」という回答は75%であり、大学全体と比較しても17ポイント高くなっている。この点からは、学科教育について一定の評価が得られているものと理解されよう。
- ・ 「ボランティア」は7割程度、「サークル」は8割程度、「友人との交際」は全員が経験している。経験者は活動について有意義だったと評価しており、全学の結果と比較して、これらの活動を高く評価している。「アルバイト」は回答者の全員が経験しており、1名が「有意義ではなかった」と回答していたが、有意義と評価する回答の比率が相対的に高くなっている。現場での実習の少なさや社会との関わりの重視といった、他学科との教育内容の相違点が、上述の回答傾向の違いに影響しているのではないかと考えられる。

3 大学での学びの成果について

- ・ 「大学での学びを活かしているか」という設問に対し、全般的に肯定的な回答の割合が全学の回答傾向と比較して低いものとなっている。これは、公共社会学科の教育内容が卒業後の進路と直接的にリンクするケースが相対的に少ないためと考えられる。
- ・ とりわけ、「専門分野の知識」や「専門分野のスキル」といった項目において、肯定的な回答の割合が相対的に低く、その傾向が顕著である。
- ・ 一方で、学科の教育において重視している、「情報を分析する力」や「論理だてて考える力」などの項目で、一定の割合の否定的な回答がある点は、今後の教育のあり方を検討する際に注意すべき内容である。
- ・ 「さまざまな文化や価値観を受け入れる姿勢」や「さまざまな人たちと協働する力」の項目で「そう思う」の回答の割合が高い点は、カリキュラムや教育内容の成果であると位置づけられよう。

令和6年度卒業生アンケート結果について（社会福祉学科）

○ 回答者について（問1～5）

令和5年度の卒業生への発送数44に対し、回答数は17であり、回答率は38.6%となっている。業種の内訳は、「社会福祉業」8名、「官公庁」3名、「卸小売業」「医療業」「その他」がそれぞれ2名であった。職種は、「相談員・指導員」6名と最も多く、「その他」5名の回答では社会福祉士（2名）、医療ソーシャルワーカー、市役所の福祉職、児童指導員であり、福祉関係の職種が多い。

また、勤務地は「福岡県内（筑豊地域以外）」8名、「九州・沖縄（福岡県以外）」4名、「筑豊地域」1名と多くの者が九州圏内に勤務している。転職については大半が「転職を考えていない」と回答しているが、「転職を考えている」が2名であった。

○ 授業・活動について（問6）

7項目中5項目において「有意義だった」「どちらかといえば有意義だった」が70%を超えており、多い順から「専門科目」「ゼミ」がそれぞれ94%、「一般教養科目」「友人との交際」がそれぞれ88%であった。このことから、本学での教育内容や学生生活における満足度は高かったといえる。

一方、「サークル」「ボランティア」では「有意義だった」「どちらかといえば有意義だった」が他項目と比べると低くなっており、「経験なし」の割合が高くなっている。大学生活の大半がコロナ禍で活動制限がなされた時期と重なったこともあり、「サークル」「ボランティア」の活動を積極的に行えなかったことが要因にあると推測できる。

○ 大学での学びを活かしているか（問7）

全項目において70%以上が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。特に、「専門分野のスキル」「さまざまな文化や価値観を受け入れる姿勢」「さまざまな人たちと協働する力」がそれぞれ94%と高い割合になっている。このことから、回答者のほとんどは、在学中に学んだ社会福祉に係る知識・スキルなどを身につけた上で、実践できていることがわかる。

○ その他の意見等（問8）

「大学で色んな出会いや経験をすることが出来て、非常に有意義な時間だった」という回答から、授業の満足度や実習先での様々な人との出会い、友人との交流等が本学での充実した学生生活に繋がっていたと考えられる。「卒業後も相談にのってほしい」という回答から、卒業生へのフォローアップの必要性がうかがわれるため、今後検討していきたい。

令和6年度卒業生アンケート集計結果の報告・分析（人間形成学科）

- ・ 人間形成学科の回答者は12名で、その業種内訳は、金融・保険業3名、官公庁2名、公立保育所2名、建設業、製造業、卸小売業、社会福祉業、私立認定こども園がそれぞれ1名ずつであった。
- ・ 【問6 授業・活動について】は、授業に関する項目「A.一般教養科目」「B.専門科目」「C.ゼミ」のすべてにおいて「有意義だった」「どちらかと言えば有意義だった」の合計が90%以上であった。活動については「F.友人との交際」「G.アルバイト」は全員が「有意義だった」もしくは「どちらかと言えば有意義だった」と回答している。「D.ボランティア」「E.サークル」は経験していない人がそれぞれ5名（42%）、7名（58%）いたが、経験者はみな「有意義だった」もしくは「どちらかと言えば有意義だった」と回答している。これらの結果から、人間形成学科卒業生は、本学の教育内容・学生生活全般に渡って満足度が高いといえる。一方で、ボランティアへの参加に関心を高め、多様な経験をすることで、より一層充実した学生生活を送ることができるのかもしれない。
- ・ 【問7 大学での学びを生かしているか】は、「そう思う」「ややそう思う」の合計が「H.さまざまな文化や価値観を受け入れる姿勢」、「J.さまざまな人たちと協働する能力」が84%で最も高く、次いで「C.専門分野の知識」「F.論理だてて考える力」「G.自分の考えを伝える力」「物事に主体的に取り組む力」が75%だった。一方で、「D.専門分野のスキル」「E.情報を分析する力」が67%、「B.社会人としてのスキル」が66%、「A.一般教養」が58%に留まった。これらの結果から、多様性を尊重し他者と協働して取り組む力は概ね活かしているが、それらに比べると一般教養や専門的職業人としての大学の学びをまだ活かしていないといえる。今回の調査は就職1年目の秋に実施していることから、大学で学んだ専門性やスキルなどはこれから発揮し始める段階であったことが考えられるとともに、心理や保育分野の専門とは異なる業種へ就職した人にとっては、専門スキルが活かしていないと感じ回答したとも考えられる。引き続き、情報の分析力や社会人としてのスキルを涵養するような機会の提供が必要であることが示唆された。
- ・ 今回の調査ではアンケート発送数が34、回答数が12で回答率が35.3%であった。発送数が少ないのは、心理コース卒業生のうち12名が大学院進学者であることによるが、回答数を増やして本学における学びをより正確に評価するためにも進学者もアンケートの対象とすることを検討してもよいのではないかと考える。

1. アンケート回収率

発送数81に対して回答数28で回収率34.6%であり、昨年度の29.2%と比べ5.4%上昇していた。昨年度は卒後3年目を対象とした調査であったが、今年度は卒後1年目を対象とした調査であったことも回収率の上昇に影響していることが考えられる。

しかし全学部のアンケート回収率の合計が昨年度31%、今年度が34%と例年とほぼ変わらない状況のため、本アンケートの調査目的を鑑み卒後1年目を対象とするのか、卒後3年目を対象とするのかを再検討する必要があると考える。

2. 勤務地・転職について

福岡県内、筑豊地域、九州・沖縄、と回答している者が28名中21名。回答者のほとんどが九州圏内で勤務している。28名中転職を考えている者が4名であり、就職後1年目での転職を考えているのは、就職はしたが自分がイメージした施設や看護ではなかったと思われると考えられる。就職先を選択する上でマイナビなどの就職支援講座の受講や合同セミナーの参加、インターンシップの参加等を促し、自分が希望する施設や看護を明確にできるような支援が必要であると考えられる。

3. 授業・活動について

一般教養科目、専門科目は“どちらかといえば有意義”・“有意義”の回答が8割を越えていた。「ゼミ」「友人との交際」の項目は、“どちらかといえば有意義”・“有意義”と8割を超えており、少人数での関わりや、やり取りを有意義と感じていたことが推測される。しかし、ゼミが“有意義でなかった”“どちらかといえば有意義でなかった”と15%が回答しており、少人数ではあるが学生の特性に応じたゼミの検討も必要だと考える。

サークル活動については、“有意義ではなかった”・“どちらかというとも有意義ではなかった”と回答している者が6名おり、カリキュラム上（実習等）サークル活動が充実しにくい状況となっていたとも考えられたとも考えられる。在学中はコロナ禍で行動制限を余儀なくされた時期でもあり、活動の広がりや困難だったのも一因としてあげられる。

4. 大学での学びの活用

卒業生は授業の「一般教養科目」は“あまりそう思わない”2名、“どちらともいえない”6名と28名中8名が回答していた。就職先施設の印象は、「一般教養」、さらに「自分の考えを伝える力」、「さまざまな文化や価値観を受け入れる姿勢」についても高評価を得ていたことから、授業で学習した一般教養を活用しながらコミュニケーションを図り、対象の多様性を受け入れることができているのではないかと考える。「自分の考えを伝える力」はコミュニケーションを行う上でとても重要であるため、今後とも学生の能力を伸ばすような支援を行っていく必要がある。一方、卒業生の回答のうち、「専門分野の知識」、「さまざまな文化や価値観を受け入れる姿勢」、「物事に主体的に取り組む力」、「さまざまな人たちと協働する力」などは“ややそう思う”“そう思う”が8割を超えていたが、就職先の卒業生の印象としては、「大学で学んだ専門分野のスキル」、「物事に主体的に取り組む力」について“あまりそう思わない”“そう思わない”と回答している。卒業生は学びを活用できていると思っているが、施設側がそう思っておらず、専門分野の知識・技術、物事に主体的に取り組む力については、卒後1年目の者は施設側が求めるレベルに達していないと考える。専門分野の講義、演習、実習において施設側が求めるレベルにいかにつけて行くかはカリキュラム内容も含めて今後検討が必要である。